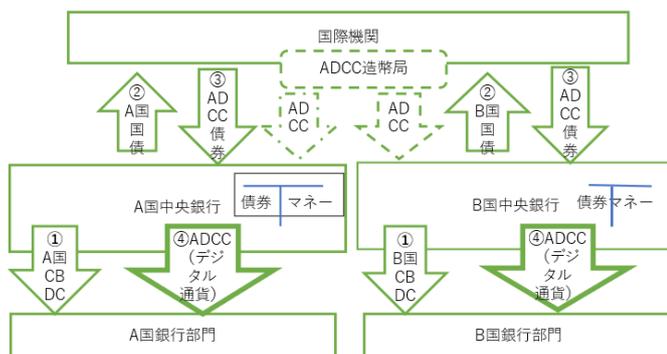


国際通貨としてのアジアデジタル共通通貨（ADCC）

大阪経済大学 高橋 亘

【概要】国際的な金融危機対応、金融安定の確保のためにアジアデジタル共通通貨を提案する。発行・流通の概要は図表 1 の通りだが、ステーブル・コインとしてアジアデジタル共通通貨建て債券を通貨発行のバック資産として発行することを提案している。これにより、資本市場の統合が進み金融市場の頑健性が高まる。さらにデジタル共通通貨のガバナンスとして、多国間体制を構想する。これにより、国際公共財としての国際通貨を多国間で共同管理する。これも危機予防となり耐性も高める。さらに本構想では、各国通貨は残存させるため（図表 2 の「多国間体制」に相当）、各国の金融政策の独立性は維持されるほか、各国単位で、匿名性・プライバシー管理と真正性が維持されるため、国際決済銀行（BIS）などがデジタル通貨の課題としている「デジタル時代の通貨主権」の問題もクリアしている。

（図表 1：アジアデジタル共通通貨 <ADCC> の概要）



（図表 2）国際通貨体制の比較



【参考論文】

高橋亘、乾泰司、「国際通貨としてのアジアデジタル共通通貨」、Discussion Paper Series DP2022-J03(神戸大学経済経営研究所)、査読無、2022年1月
 Wataru Takahashi, Taiji Inui, 「Asia Digital Common Currency as a global (international) currency」、2022年3月、未定稿